

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にならねば。
大阪教育大学

- 01 教師にまっすぐ修了式を実施
- 02 リレーエッセイ
- 03 加盟校出身学生の紹介
- 04 交流事業の紹介
- 06 加盟校の取組紹介
- 07 大教大トピックス／編集後記

教師にまっすぐ修了式を実施

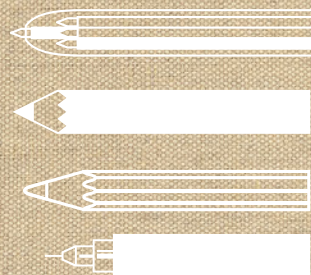
教師にまっすぐ修了式を、12月23日(土)に柏原キャンパスで実施しました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



あの時の『誓い』

1 自己紹介

教育に関わる仕事を選択し、働き始めて今年で43年になります。今年度から大阪教育大学に勤務させていただき、引き続き教育に携わる仕事を得ていることに感謝しています。

若い大学生が教師をめざして日々学び語り合う姿は、私たち周りにいる大人たちに平和で安全安心な未来の社会への期待を確かなものにしてれています。学生に直接語りかけはしないが、心の中で「頑張ってるね。頼みますね」と自然に願うようになっています。こう言ってしまうと、世間の定年を超えた年寄りが「自分は責任を果たしたのだから、あとは皆さんが頑張る番ですよ。ではよろしく」と無責任に語っているように聞こえるかもしれません。この点については、自分の姿勢を明確にしておかなければならないと思っています。私は、「出来るならば可能な限り責任感をもって教育に関わっていきたい。そして、約束を果たしたい」と願っています。いや「誓っている」と言ってもいいかもしれません。

今、大学で学生の面接指導をしたり、高校生を招いて教員への夢をサポートする取り組みに参加する中で、私の「願い」や「誓い」を考え振り返っています。

2 教員をめざし

私が教員をめざそうとしたのは、大学の3回生になる前でした。戦中・戦後の混乱期に地方から大阪に出てきた両親のもと、日本の高度経済成長期に小学校へ入学し、細々とではあったが真面目に生きることを旨とする家庭に育ちました。裕福ではなかったが、大学まで進むことができ、父親と違っていわゆるホワイトカラーといわれる仕事を選択しようと考えていました。企業に就職することをぼんやりと考えていたある日、高校時代の部活動の先輩で高校の教師になっておられた方にたまたまお会いし、バレーボール部のお手伝いをするという機会をいただきました。バレーボールを通じて高校生に関わる毎日がとても楽しく、その魅力に取りつかれてしまいました。迷うことなく進路変更し、3回生から教職をめざして単位を取り始めました。

3 新任教員として

1981年4月、大阪市の中学校・社会科教員として採用され赴任しました。当時は全国的に学校の「荒れ」が話題となっ

ており、赴任校も様々な課題に直面し困難な状況でした。当初より、私は生徒の態度や言葉遣いに驚き、その甘えたようにしか見えなかった生活態度を看過できませんでした。

当然のこととして、連日にわたり生徒と対立し激しい言葉の応酬。しかしながら、私は解かっていなかったのです。一人ひとりの生徒の生活実態や、社会的な課題を抱えた生徒の思いが見えていなかった。見ようとしなかった、見る力がなかった、と言えました。それから少しずつ生徒との距離を詰める努力を悩みながら自分なりにしていきました。すると、時間はかかったが生徒の方からこれまでと全く違った顔で返信がされるようになってきました。卒業式の当日、「荒れ」とは無縁の会場で、卒業生たちから「先生、ありがとう」と涙を流して言われた時には、まったくもって申し訳なかったと悔いました。あの時、「分かっていなかったのは自分です。生徒を理解できる教師になることを誓います」と返事したかった。

4 時代は変われど

それから42年間、教諭、教頭、校長、教育委員会事務局と、様々な仕事を経験させていただきました。子どもに関わる教師という仕事は、毎年決まったことを同じように繰り返しているように見えて、実は違います。学校は、その時代を生きる多様な子どもたちが言葉や感情をやり取りし、喜びや感動を共有するライブ会場です。しかし、ライブ会場の指揮者は、自己満足の世界に陥っていないかと絶えず点検する努力を怠ってはいけません。教育委員会の指導部長であった時、高校の部活動における顧問教諭の体罰・暴力行為による生徒自死事案に直面しました。犠牲となった生徒やそのご遺族には誠に申し訳なく、謝罪することで許されるものではありません。教師が、学校が、教育委員会が、本

当に生徒を理解できていたのか。大きな犠牲を払って、ようやく気付くことになってしまいました。

今も、あの時の「誓い」のことを考え続けています。



大継 章嘉 おおつぐ あきよし
大阪教育大学
特任教授

加盟校出身学生の紹介



ありがた はるか
有方 遥さん

教育協働学科 教育心理科学専攻 1 回生
池田高校 令和5年3月卒業

高校時代の思い出は

部活動が一番思い出に残っています。合気道部に所属していました。人数が少なかったので練習は大変でしたが、文化祭で演舞を披露したり、昇級試験に向けて稽古したり、時にはお楽しみ会をしたりと、充実した日々でした。中々技が上手くならず、周りに迷惑をかけてはいけないと思って辞めようか悩んだ時もありましたが、周りに支えてもらってやり抜くことができました。粘り強く諦めずに向き合うことの大切さを学んだ、とても貴重な経験です！

話を覚えることができます！学生広報は人数が少ないので大変なこともありますが、フリーペーパーを作成したり、学園祭で他団体への取材や SNS への投稿を行ったりと、貴重な経験ができます。また、「教師にまっすぐ」のお手伝いなどもさせていただけるので、たくさんの人と関わったり、プレゼンや運営の仕方など多くのことを学ぶことができます！

おすすめの受験勉強法

苦手科目の克服に早めに取り組むのが良いと思います！私は数学が苦手だったので、高3になる前の春休みから黄色チャートを使って復習を始めました。参考書に関しては、自分のレベルにあったものを使うことをおすすめします。また、自分が受けた模試やテストなどは解き直しをすべきだと思います。模試には受験で出やすい問題が多く出題され、かつ模試は自分の苦手を知るための大切なテストだからです。加えて、時間を上手く使うこと、規則正しい生活を送ることが重要だと考えます！特に睡眠はしっかり取るべきです。

大教大の良いところ

大教大の良いところは、根が真面目で意欲的な人が多いところですね！部活・サークルやボランティアなど、多くの人が興味のあることに一生懸命に取り組んでいる印象があります。また、教師や公務員などの夢を追う同志がたくさんいるのも魅力の一つです！教育大学というだけあって、教職に関する情報と仲間が他大学と比べて圧倒的に多いと思います。

大学生活を有意義に過ごすには

自分が少しでも興味を持ったことがあれば、それに果敢に取り組むことが大切だと思います！「自分の思うままに様々な活動ができるのは、学生のうちぐらいだ」とよく聞くので、失敗を恐れずにボランティア、資格試験、研究活動などに挑戦することをおすすめします。大学は自由な分、自分から行動しないと最低限の学びしか得ることができません。自ら情報を集め、積極的に行動することで充実した日々を送ることができます。また、人脈を広げることも大切です！

おすすめの受験勉強法

一緒に勉強を頑張る友達を見つけることです。私は一人で勉強するとどうしても勉強に集中できずにスマートフォンを触ったり、漫画を読んだり、ついついさぼってしまいがちでした。そのため、勉強するときはできるだけ誰かと一緒にするようにしました。学校が終わったら友達と一緒に学校に残って遅くまで勉強したり、学校から帰った後も電話をつなぎながら勉強したり、休み時間に問題を出し合ったり、私が受験期を乗り切れたのは一緒に勉強をしてくれた友人の存在があってだと思います。

大教大の良いところ

教員をめざす人がたくさんいることです。自分と同じ学科、専攻の人たちはもちろんのこと、講義や課外活動で様々な教員志望の人と関わることで、自分の中の教師像を見つけていくことができます。また、教員という同じ目標をめざす人がいることは、自分が頑張る原動力にもなります。

大学生活を有意義に過ごすには

大学生にはたくさんの時間がある一方、ぼーっと過ごしているとその時間は一瞬で過ぎ去ってしまいます。そのため、やってみたいと思ったことにはどんどん挑戦していくことが大切だと私は考えています。私は最近高校時代の友達と一緒にプログラミングに挑戦しています。もちろん、挑戦してみても失敗することもあるかもしれませんが、ですがその失敗は必ずどこかで自分を成長させてくれると私は思います。

なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？または将来の目標

心理学に興味があり、公認心理士の資格を取りたいと思っていたのでこの専攻を選びました。将来的には公認心理士になることをめざしていますが、大学院に進学して学びを深めるか、授業を通して興味をもった福祉系・教育系の仕事に就くかはまだ迷い中です。

専攻の良いところ

公認心理士の受験資格に必要な科目を学べるのが、良いところだと思います！また、心理学だけでなく、教育学や福祉学なども幅広く学べることも良い点です。心理系の職には、カウンセラーやスクールソーシャルワーカーといったものがあり、これらは心理学だけでなく福祉学などの知識も必要になるので、それを一回生の頃から学べるのはとても有難いです。

クラブ・サークルは何をやっていますか？

または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

手話サークルと、DAIKYO PRESS という学生広報団体に所属しています。手話サークルは人数が多いので、いつもみんなでわいわい楽しみなが手

じめし きょうこ
地主 恭悟さん

学校教育教員養成課程 小中教育専攻・数学教育コース 1 回生
高津高校 令和5年3月卒業

高校時代の思い出は

修学旅行がとくに印象に残っています。もともとは北海道に行く予定でしたが、ちょうど新型コロナウイルス感染拡大の影響により、延期、そして規模縮小を経て、三重と名古屋に行きました。もちろん規模が小さくなってしまったことはショックでしたが、感染対策などの制限があっても楽しい修学旅行にする方法を教師、生徒で模索してようやく行くことができた修学旅行の三日間は忘れられない大切な思い出です。

なぜ所属する専攻・学科・コースをめざしたのか？または将来の目標

私は小学校か中学校の教師になりたいと考えていました。私が所属しているコースでは小学校の教員免許に加え、中学校の数学教員の免許も取得することができると知り、受験しました。同じ教師という目標を持つ仲間がたくさんいる場で学びたいと思ったのも理由の一つです。

専攻の良いところ

良いところは、様々な進路をめざす人がいることです。小学校教員をめざす人と中高の数学教員をめざす人、これから考えていく人が同じくらいいるので、いろいろな人と共に過ごしながら自分の進路について考えることができます。

クラブ・サークルは何をやっていますか？

または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

演劇のサークルと DAIKYO PRESS という学生広報のサークルに所属しています。どちらも今までやっていたことではなく、大学生になったらやってみたい、と思っていたことです。今までとは違う新しいことを始めるのは、難しさもありますが、その分新しい自分に気づけたり、今まで出会えなかったような人に会えたりして、とても楽しいです。11月の神霜祭では、初めてお客さんの前で演技を披露しました。とても緊張しましたが、今まで得たことのない達成感を得ることができました。





交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

教師をめざす高校生の 育成プログラム 「教師にまっすぐ」(修了式)を実施

教師をめざす高校生が、夢を大きく膨らませ、志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」の修了式を、12月23日(土)に柏原キャンパスで実施しました。

今回のプログラムの最初に、大阪教育大学アカペラサークルグループの「れこおど倶楽部。」が、2曲歌を披露し受講生を歓迎しました。

続いて、本プログラムの最終課題である小論文の講評および表彰式を行いました。表彰式ではグッドモデル小論文に選ばれた、附属高校天王寺校舎の海老美聡さん、大阪府立泉北高校の角江優さんの2名が作品を発表しました。次に大継章嘉学長補佐が講話を行い、「特に日本においては教育が非常に充実しています。これからの日本の教育は皆さんが自由に担って、未来の新しい教育を作っていくてください」と受講生を激励しました。

プログラム内で行った受講生交流では、高校生が大学生と一緒に「教師にまっすぐ」を受講して感じたこと、これからの意気込み等について意見を交わしました。高校生からは、「今回の取組を通して、より教師になりたいという気持ちが強くなりました」「教師をめざす他校の生徒と関われたことで、将来のモチベーションが高まりました」等の感想が寄せられました。

最後に、大継学長補佐から代表生徒2名に修了証書を授与し、「れこおど倶楽部。」が再度歌を披露し高校生へのエールを送り、閉式の挨拶では槻の木高校の青竹二郎校長が「皆さんのすばらしい決意表明が聞けてとても良かったです。この半年の経験を今後に生かしてほしいです」と述べました。



大継学長補佐の講話



青竹校長の閉会挨拶

府内の高校教員を対象に 教師の学び舎特別講座を 開講

「教師の学び舎」の特別講座を「観点別評価、指導と評価の一体化」と題し、12月2日(土)に、天王寺キャンパスで開講しました。

「教師の学び舎」は、府立高校教職コンソーシアムの加盟校及び大阪府内の公立高校の教員を対象に、教職大学院レベルの講座を開講し、次代の大阪の教育を牽引するリーダーの育成支援を目的に実施するもので、今年度は「新学習指導要領の着実な実施のために～Society5.0時代の教育を見据えて～」をテーマに、特別講座を含めて計4回開講しました。

講座では、初めに学校教育部門の瓜生彩子教授が大阪府立美原高校職員研修の取組事例を紹介し、それを受け受講生たちは自校での評価基準などを交えながらグループワークを行いました。

続いて、学校教育部門の八田幸恵准教授が講師となり、グループワークを交えながら観点別評価をテーマとした講義を行いました。講座の最後には修了式を行い、大継章嘉学長補佐より受講生へ修了証が手渡されました。受講生からは「主体的に取り組む態度について、考え方の整理ができました」「主体性の評価をつける際に、幅を持たせて評価をつけることができることがわかり、天井が開けた感覚でした」といった感想が寄せられました。



講義の様子



受講生、大学生、教員との記念撮影



修了式の様子



交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

作文コンクール“Leading to the Future”の 表彰式を実施

作文コンクール“Leading to the Future”の表彰式を、12月22日（金）に柏原キャンパスで実施しました。この作文コンクールは「先生との関わりで感動したこと、学んだこと、そして理想の学校園とは？」というテーマで、府立高校教職コンソーシアム加盟校およびすべての府立高校・高等部から、将来教職をめざす生徒を対象に募集したもので、計7校から49件の応募があり、厳正な審査のうえ最優秀賞・優秀賞・佳作を決定しました。

表彰式には最優秀賞に輝いた八尾翠翔高校の平賀幸大さんと大阪南視覚支援学校の酒井響希さん、優秀賞に輝いた高槻北高校の澤田実佳さん、大阪教育大学から廣木義久理事・副学長、藤井睦子副学長、

大継章嘉学長補佐、瓜生彩子教授が出席しました。

式では最初に、廣木理事・副学長が優秀賞、最優秀賞を発表し、表彰状・トロフィー・副賞を各受賞者に授与しました。その後記念撮影を行い、続けてどのような想いで作文を書いたのかなどについて懇談しました。

懇談の中で廣木理事・副学長は「とても素晴らしい作文を書いてくださりありがとうございました。皆さんの書かれた文章の中で、昔先生からかけられた言葉が印象に残っている、ということが共通してありました。教育は繋がっていくものなので、将来皆さんが教員になった際にはそれぞれの想いを乗せた言葉をかけてあげてください」と、激励しました。

賞	高校名	名前	学年	作文タイトル
最優秀賞	八尾翠翔	平賀 幸大 さん	2	未来に向かって、教育・夢・感動
最優秀賞	大阪南視覚支援	酒井 響希 さん	2	絆を紡ぐ言葉
優 秀 賞	高槻北	澤田 実佳 さん	2	言葉は人を繋ぐ
佳 作	生野	山高 椿 さん	1	正しいこと
佳 作	八尾	松下 碧泉 さん	2	学びとこれから



表彰状を手に記念撮影

最優秀賞受賞作品は
こちらから





加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS'
PROGRAMMES

吹田東高校 ～現代社会を生き抜く力をはぐくむ探究改革～

吹田東高校は1974（昭和49）年4月1日、89番目の府立高校として、近くに万博記念公園を望む、緑豊かな青葉丘の地にて教育活動を開始しました。



新校舎

今年で創立50周年を迎えたところです。2019（令和元）年8月には、計画期間や仮校舎の建設・移転も含めると合計6年に及ぶ新校舎建設工事が完了し、「光と風に包まれた」をコンセプトとする美しい校舎が注目を浴びることとなりました。地域では「スイヒ」と呼ばれて親しまれ、地域に愛される学校として、「真理をもとめ 正義を愛し健康であれ」という教育方針と、「自主自立の精神を培い、違いを認め合い他者を思いやる豊かな人間性と確かな能力を身につけ、変化の大きな社会に対して貢献できる生徒を育てる」というスクールミッションを掲げて教育実践を行っています。

S 講座、青葉丘セミナーで希望進路の実現

2006（平成18）年度に開始したS 講座は、スイヒの特色ある取り組みのひとつとして、現在まで継続して開講しています。

S 講座とは、PTA の援助を受けながら、外部予備校の講座を校内で手軽な価格で受講できる講座のことです。近年は1・2年生では英検対策（大学入試においても資格を取得していると有利になることから）を、3年生は受験に特化した講座として英・数・国・歴史・小論文など多様な科目を開講しています。

大阪大学との高大連携企画である青葉丘セミナーは、主に定期考査前の土曜日に毎年6～7回程度開催しており、参加者数は1回あたり50～60名程度で推移しています。大阪大学の学生に、個別に質問をすることができ、定期考査前の講座で効果が現れやすいことも人気です。

こういった講座の効果もあり、4年制大学への進学率は8割まで伸び、難関私立大学である関関同立の合格者数は、令和5年入試では50名となりました。

特色のある「総合的な探究の時間」への改革

吹田東高校は、2021（令和3）年度「主体的に考え行動する生徒を育てるプロジェクト」により、大阪府学校経営推進費事業校となりました。

これは大阪府教育庁が、教育目標の達成に向け高い効果が期待できる事業計画を提案する学校に対し、予算措置又は補助を行うものです。ここで実施したのが「21世紀型リーダーシップ研修」を「総合的な探究の時間」に導入することです。現代は、特定のリーダーにのみ「リーダーシップ」を求められる時代ではありません。「21世紀型リーダーシップ研修」で学んでいるリーダーシップは、「チームの目標達成のために他者に及ぼすプラスの影響力」のことであり、すべての高校生に身に付けてほしい、全員発揮のリーダーシップです。2021（令和3）年度に課外授業として導入し、2022（令和4）年度から1年生の「総合的な探究の時間」内に取り入れています。「目標設定・共有」「率先垂範」「相互支援」の3つの行動を大切に、組織の中での行動力に繋げています。



リーダーシップ研修の様子



リーダーシップ研修に
取り組む生徒たち

また、1年生でリーダーシップを学んだ生徒たちは、2年生で社会に出て役立つ力を身に付けるための探究プログラムを実施中です。2年生は企業・NPO・大学・市役所と連携し、各団体が直面している現代社会の諸課題を知り、各団体から出された企画立案型の探究課題を進めることで、社会に出て生きる力を養うことを目的とした探究活動を行っています。この2年次のプログラムは、2023（令和5）年度から3年間、三菱みらい育成財団の「心のエンジンを駆動させるプログラム」助成校に選ばれています。



2年生の探究プログラムの様子

大学祭「神霜祭」を開催

秋の大学祭「神霜祭」を11月2日(木)、3日(金・祝)、4日(土)の3日間にわたり柏原キャンパスで開催しました。新型コロナウイルスによる入場制限などの規制が撤廃され、地元市民らが多数訪れました。

2023年神霜祭のテーマは「暁」です。このテーマには、大学祭準備会(通称:大学祭実行委員会)の「コロナ禍という夜の時代を乗り越えた先の夜明け」という意味が込められています。

今回は4年ぶりに芸能人企画が復活し、人気芸人によるお笑いライブが行われました。また、バラエティ豊かな模擬店、個性あふれる展示やゲームなどの教室企画、音楽ライブやダンスパフォーマンスなど多彩なイベントが繰り広げられました。さらに、キャンパス全体をめぐる謎解きスタンプラリーも行われ、用意していた景品が早々になくなってしまふほどの大盛況でした。

大学祭実行委員会の委員長である毛穴大翔さん(学校教育教員養成課程 小中理科教員養成コース)は「昨年は、対面の神霜祭を先輩方が復活させてくれました。それをさらに盛り上げようと様々な企画を取り入れた影響もあり、今年はたくさんの方にご来場いただきました。今回の神霜祭の楽しさや盛り上がりによって、コロナに対する不安感なども晴らすことができたのではないかと思います。今回ご来場いただいた方に、また来年も来たいと思っていただけたならば、委員長としてこれ以上に嬉しいことはありません」と振り返りました。



神霜祭の様子

気鋭の指揮者とヴァイオリン奏者を迎えて第67回定期演奏会を開催

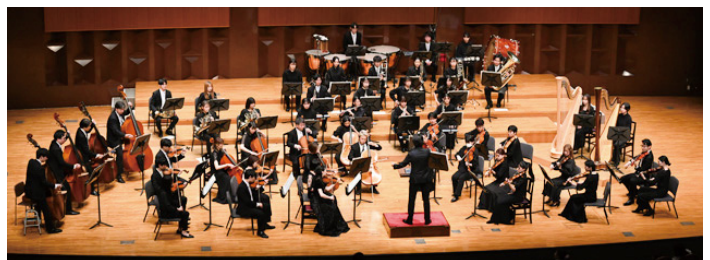
教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コースの学生らによるオーケストラが、第67回定期演奏会を11月2日(木)にザ・シンフォニーホールで開催しました。今回は、アメリカを中心に世界中で目覚ましい活躍を続ける指揮者の原田慶太楼氏と、昨年3月まで東京交響楽団のコンサートマスターを務めたヴァイオリン奏者の水谷晃氏をゲストに迎えて行われました。

コンサートは、ヴェルディ作曲『歌劇「運命の力」序曲』のドラマチックな演奏で開幕しました。続くブラームス作曲『ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品77』では、水谷氏の圧倒的な技巧による優美かつ情熱的なヴァイオリンとオーケストラが絡み合い、見事なハーモニーを奏でました。後半では、ドヴォルザーク作曲『交響曲第9番 ホ短調 作品95「新世界より」』を演奏。原田氏のダイナミックな指揮に率いられ、新天地から海の向こうの故郷へとはせる思いを情感豊かに表現しました。演奏後は盛大な拍手が鳴りやまず、原田氏は何度も舞台に戻り、笑顔で応えていました。

オーケストラ代表を務める同コース3回生の西川菜々さんは、「原田先生と水谷先生という第一線で活躍する音楽家をお迎えすると聞いてから、学生一同心から楽しみに練習に励んできました。原田先生のリハーサルは、ただ曲を仕上げていくだけでなく、学生にさまざまな問いかけをしながら作品について考えさせ、一緒に音楽を作り上げていくというもので、先生の指揮とお話に全員が必死に食らいつき、1秒1秒、濃い学びをしている感覚がありました。コンサート運営も学生主体で行うため苦労もたくさんありましたが、本番は大好きな仲間たちと先生方と音楽を純粋に楽しむことができ、夢のような時間でした。この経験はかけがえのない宝物です」と話しました。



笑顔で対話する原田氏と学生たち



コンサートの様子

編集後記

「教師にまつぐ」最終回の受講生交流では、これまでのプログラムを通して感じたことやこれからの決意表明を他校の生徒問わず活発に意見交換していました。教師という仕事には「対話力」が大切だと考えているので、高校生のみなさんの姿を見て、将来良い教師になるのだろうと期待と希望を持つことができました。

教育は明確な正解がない世界なので、高校生の方にはこれから他者との会話、読書、様々な経験を通して視野を広げていただきたいです。時にはつまづくこともあるかもしれませんが、そのようなときには初心を思い出し、1歩ずつ前に進んでください。みなさんの明るい未来を願っています。

追伸、大阪教育大学では、令和6年度に「令和の日本型学校教育」を担う教員を養成していくため、より先導的・革新的な講義を展開し、時代・社会の変化に適応した専攻・コースを新設、そして複数免許の取得を可能にしたカリキュラムを整備するなど、教員養成課程を改組をします。詳しくは右記のQRコードをご覧ください。(K.K)

令和6年度教員養成課程の改組についてはコチラをご覧ください。



府立高校教職コンソーシアムは、すぐれた資質を備えた次代を担う魅力ある「教員」を育てるために、本学をはじめとする教育系大学と連携し、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を与えることを目的として、大阪府内の32府立高等学校間で平成26年末に結成されました。現在は43校が加盟しています。



大阪教育大学のSNSアカウント



公式X(旧Twitter)

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/OKUChannel>



公式Instagram

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv>



イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。